日本航空株式会社
2016年3月期
決算説明会

2016年4月28日

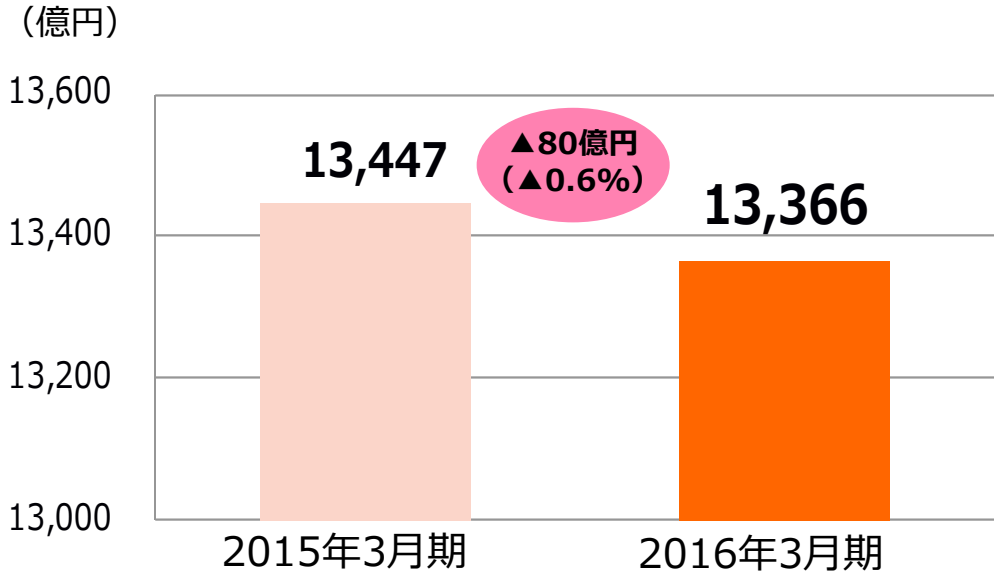
代表取締役社長　植木義晴
取締役専務執行役員　斉藤典和

本日お話しさせて頂くこと

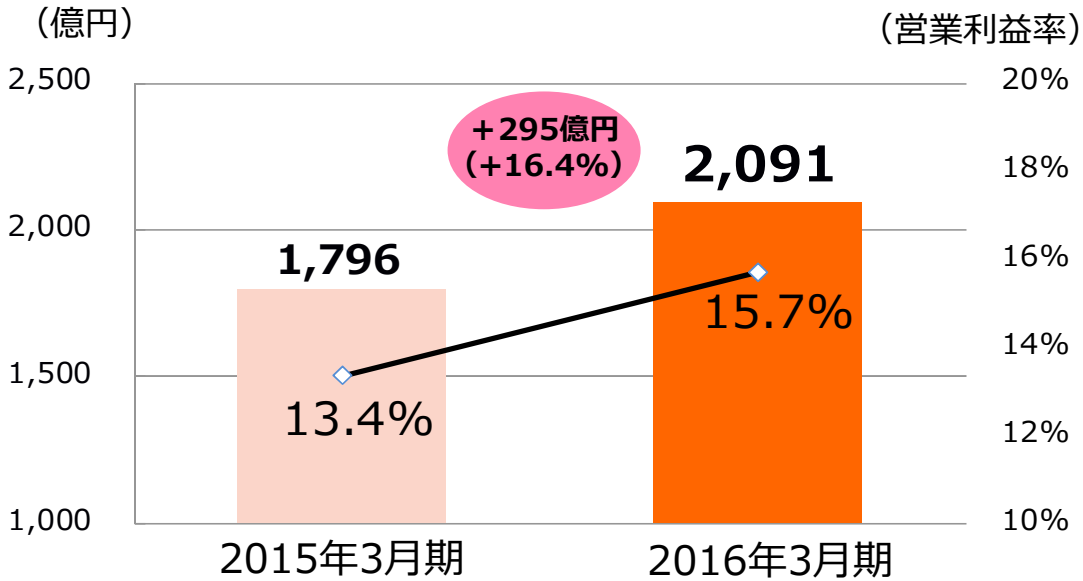
- **2016年3月期　業績概要** P.1
- **2016年3月期　配当金** P.2
- **中期経営計画の進捗・経営トピックス** P.3
- **2017年3月期　業績予想** P.5
- **2016年3月期　業績詳細** P.6
- **参考資料** P.21

2016年3月期　業績概要

営業収益



営業利益



運航諸元・市況実績

	2016年3月期（前年比）
ASK 国際線	+1.3%
国内線	▲1.2%
合計	+0.2%

	2015年3月期	2016年3月期	前年比
シンガポールケロシン (USD/bbl)	103.5	**60.0**	▲42.0%
ドバイ原油 (USD/bbl)	87.6	**47.2**	▲46.1%
為替 (円/USD)	108.4	**120.5**	+11.2%

- ✓ 国内線の増収および燃油市況の下落等により前年対比増益となり、営業利益は2,091億円
- ✓ 営業利益率は15.7%となり目標とする10%以上を達成

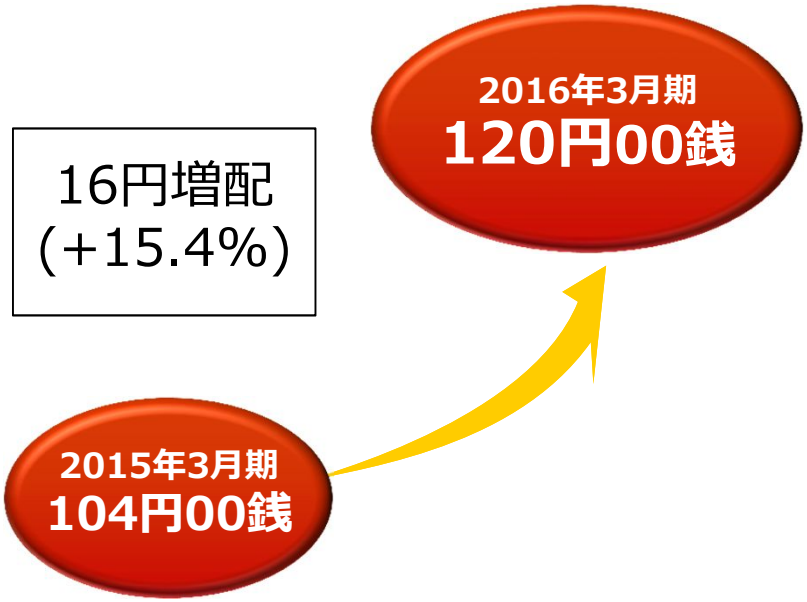
2016年3月期　配当金

配当金

	2015年3月期 実績	2016年3月期 今回公表値	2016年3月期 前回公表値 (2016/1/29)
当期純利益(※)	1,490億円	**1,744億円**	1,720億円
法人税等調整額	+13億円	**▲4億円**	–
配当の基準となる利益	1,503億円	**1,740億円**	1,720億円
	× 25%	× 25%	× 25%
配当金総額	377億円	**435億円**	431億円
発行済株式総数	362,704千株	**362,704千株**	362,704千株
1株当たり配当金額	104.00円	**120.00円**	119.00円
配当性向	25.3%	**24.9%**	–

（※）親会社株主に帰属する当期純利益

2016年3月期の1株当たり配当金予想額



配当金計算

親会社株主に帰属する
当期純利益から
法人税等調整額の
影響を除いた額の
25%程度

中期経営計画　経営目標の進捗

JAPAN AIRLINES

目標

安全

「航空事故[1]」、「重大インシデント[2]」ともにゼロを達成する

顧客満足

2016年度までに「顧客満足 No.1[4]」を達成する

財務

「5年連続営業利益率10%以上、2016年度末自己資本比率50%以上」を達成する

進捗

各指標	2012年度[3]	2013年度	2014年度	2015年度[3]
航空事故	1件	0件	2件	1件
重大インシデント	2件	1件	0件	3件

各指標		2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
国際線	再利用意向率[5]	3位	1位	1位	1位
	他者推奨意向率[6]	2位	2位	1位	2位
国内線	再利用意向率[5]	6位	6位	3位	5位
	他者推奨意向率[6]	3位	2位	3位	3位

各指標	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
営業利益率	15.8%	12.7%	13.4%	15.7%
自己資本比率	46.4%	51.5%	52.7%	53.4%

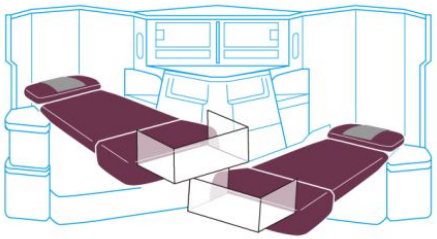
1. 航空機の運航によって発生した人の死傷(重傷以上)、航空機の墜落、衝突または火災、航行中の航空機の損傷(大修理)等
2. 航空事故には至らないものの、その恐れがあったと認められる事態。滑走路からの逸脱、非常脱出等
3. JALグループ側の問題点を指摘されていないケースを除く
4. お客さまの再利用意向率、他者推奨意向率：公益法人日本生産性本部　サービス産業生産性協議会が発表するJCSI (Japanese Customer Satisfaction Index)の値
5. お客さまがその次もそのサービスを使いたいと思うこと
6. サービスを受けた経験を家族や仲間に伝えたり、ブログ等で発信したりして他の人に勧めたいと思うこと

経営トピックス

路線ネットワーク・商品サービス

- ✓ 国際線：「JAL SKY SUITE Ⅲ」を2016年7月より順次導入予定
  羽田=バンコク線、
  羽田＝シンガポール線、ホノルル路線
- ✓ 国内線：「JAL SKY NEXT」機材の導入を2016年度中に完了

(JAL SKY SUITE Ⅲ　777-200ER型機)



- ✓ JALエクスプレス・タグサービスが羽田に加え、札幌・大阪・福岡・沖縄の4空港にて利用可能に

女性活躍・社会貢献

- ✓ 2015年に引き続き「健康経営銘柄2016」・「なでしこ銘柄」に選定

健康経営銘柄2016
Health and Productivity

※2016年1月21日発表

NADESHIKO BRAND 2016

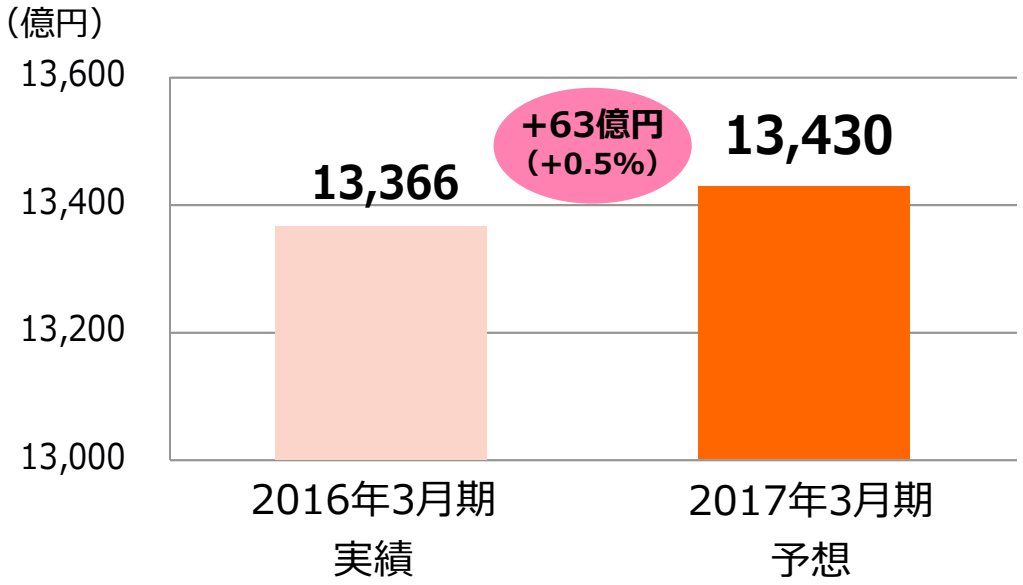
※2016年3月16日発表

- ✓ JALとイオンが緊急物資輸送の覚書を締結
- ✓ 「平成28年熊本地震」被災者支援
  義援金・マイル寄付、災害支援者への搭乗協力、
  救援物資の輸送協力

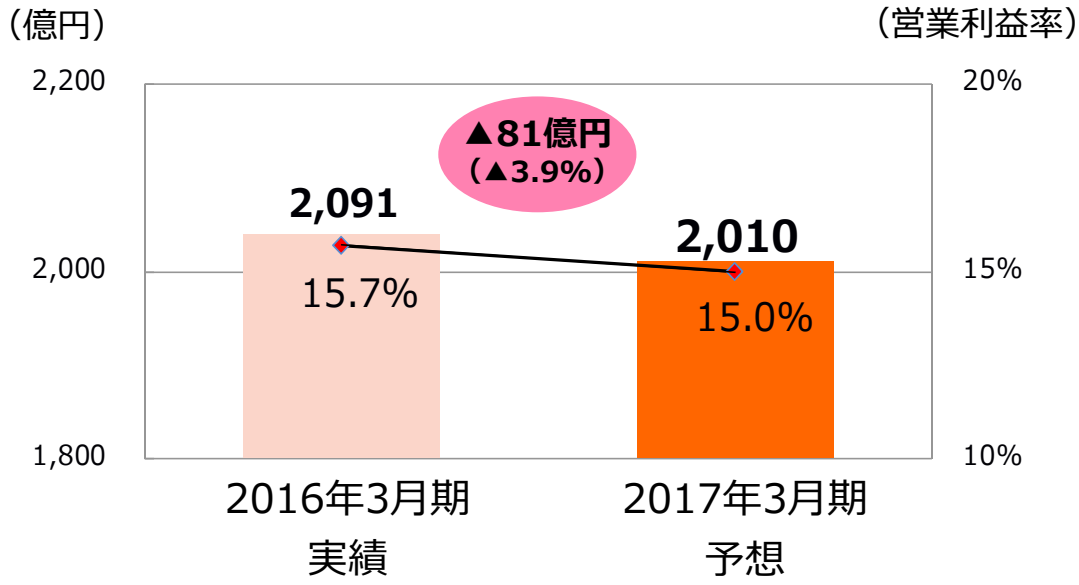
(4/29から就航の「がんばろう日本」復興支援特別塗装機)

2017年3月期　業績予想

営業収益



営業利益



運航諸元・市況前提

	2016年度計画（前年比）
ASK　国際線	▲0.6%
国内線	▲0.0%
合計	▲0.3%

	2016年3月期	2017年3月期（予想）	前年同期比
シンガポールケロシン (USD/bbl)	60.0	50.0	▲16.7%
ドバイ原油 (USD/bbl)	47.2	36.0	▲23.7%
為替 (円/USD)	120.5	123.0	+2.1%

※2017年3月期業績予想は、2016年2月18日公表値から変更しておりません。

INTENTIONALLY LEFT BLANK

連結経営成績

2016年3月期　連結経営成績

（単位：億円）	前年同期	2016年3月期	前年同期比	第4四半期(5)	前年同期比
営業収益	13,447	**13,366**	▲0.6%	3,132	▲2.8%
航空運送連結	11,962	**12,052**	+0.7%	2,819	▲1.5%
営業費用	11,650	**11,274**	▲3.2%	2,740	▲2.4%
航空運送連結	10,346	**10,143**	▲2.0%	2,467	▲0.8%
営業利益	1,796	**2,091**	+16.4%	391	▲5.5%
航空運送連結	1,615	**1,908**	+18.1%	352	▲6.5%
営業利益率 (%)	13.4%	**15.7%**	+2.3pt	12.5%	▲0.3pt
経常利益	1,752	**2,092**	+19.4%	387	+2.5%
当期純利益(1)	1,490	**1,744**	+17.1%	307	+4.8%
ASK（百万席キロ）	84,003	**84,196**	+0.2%	20,682	+0.4%
RPK（百万人キロ）	60,103	**62,411**	+3.8%	15,190	+2.9%
EBITDAマージン (%) (2)	19.8%	**22.3%**	+2.5pt	19.8%	+0.3pt
EBITDARマージン (%) (3)	21.8%	**24.0%**	+2.3pt	21.5%	▲0.3pt
ユニットコスト(円) (4)	8.9	**9.3**	+0.5	9.6	+0.5
燃油費含む	12.3	**12.0**	▲0.3	11.9	▲0.1

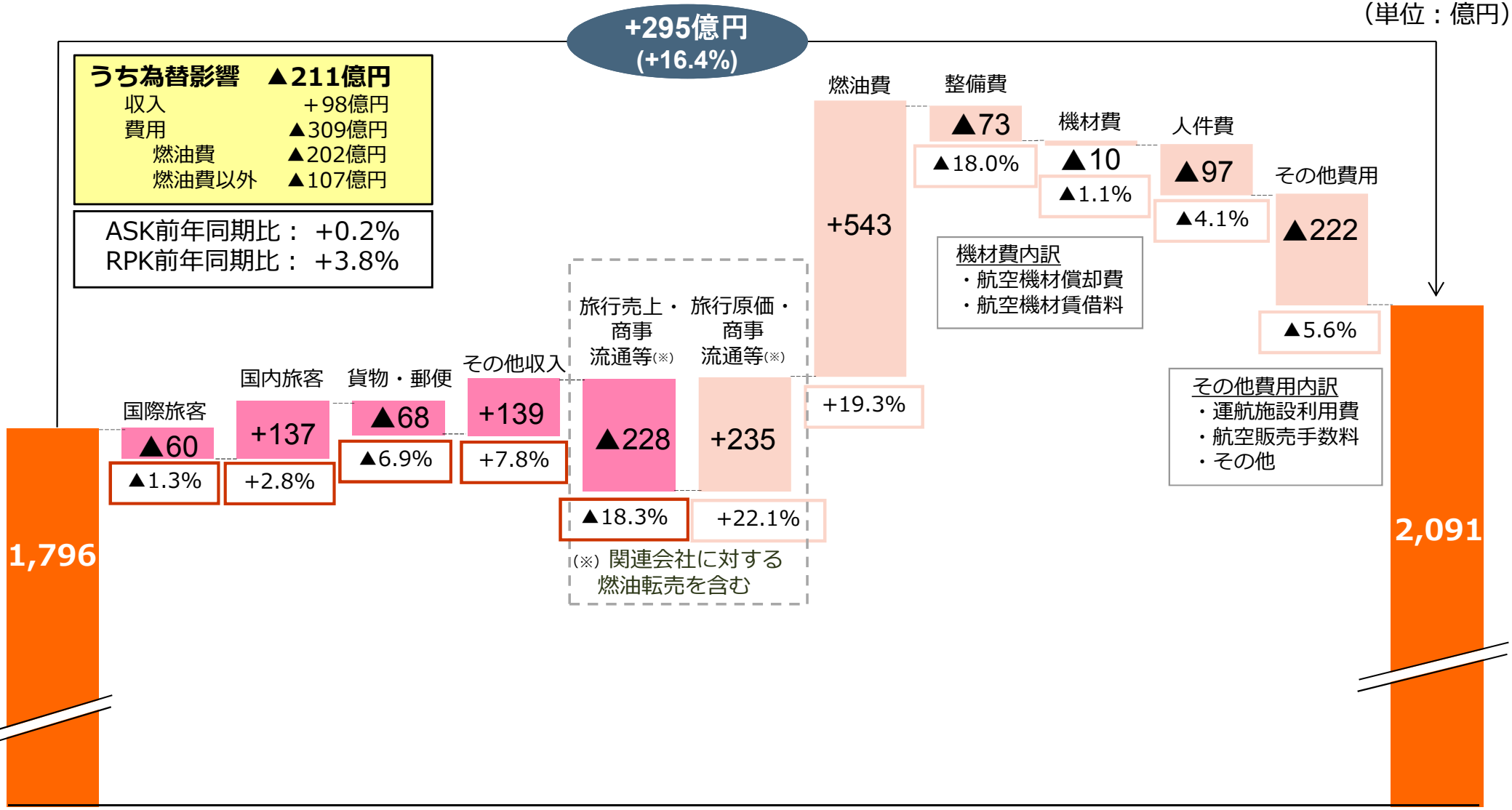
- ✓ 営業収益は前年比▲0.6%の13,366億円
- ✓ 営業利益は前年比+16.4%の2,091億円
- ✓ 営業利益率は15.7%
- ✓ 経常利益は前年比+19.4%の2,092億円
- ✓ 当期純利益は前年比+17.1%の1,744億円

1. 親会社株主に帰属する当期純利益
2. EBITDAマージン=EBITDA/営業収益　EBITDA=営業利益+減価償却費
3. EBITDARマージン=EBITDAR/営業収益　EBITDAR=営業利益+減価償却費+航空機材賃借料
4. ユニットコスト=航空運送連結費用(燃油費、収入費用両建ての関連会社向け取引を除く) / ASK
5. 第4四半期(1-3月)の実績は2016年3月期実績(4-3月)から第3四半期累計実績(4-12月)を差し引いて算出

営業利益増減の推移

2016年3月期

（単位：億円）



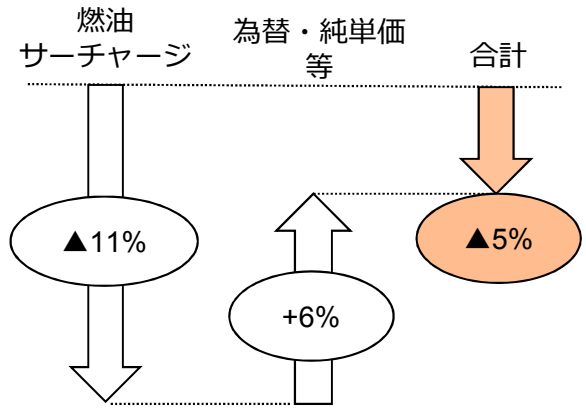
国際旅客事業（輸送実績）

国際旅客事業の状況

	前年同期	2016年3月期	前年同期比	第4四半期(1)	前年同期比
旅客収入（億円）	4,548	**4,487**	▲1.3%	1,027	▲5.6%
ASK（百万席キロ）	47,696	**48,327**	+1.3%	11,979	+1.9%
RPK（百万人キロ）	36,109	**38,069**	+5.4%	9,318	+3.5%
有償旅客数（千人）	7,793	**8,080**	+3.7%	2,013	+1.4%
座席利用率（%）	75.7%	**78.8%**	+3.1pt	77.8%	+1.1pt
イールド(2)（円）	12.6	**11.8**	▲6.4%	11.0	▲8.7%
ユニットレベニュー(3)（円）	9.5	**9.3**	▲2.6%	8.6	▲7.4%
単価(4)（円）	58,362	**55,537**	▲4.8%	51,042	▲6.9%

- ✓ 旅客収入は4,487億円となり前年比60億円減少
- ✓ ASKは前年比+1.3%、RPKは前年比+5.4%となった結果、座席利用率は+3.1ptの78.8%

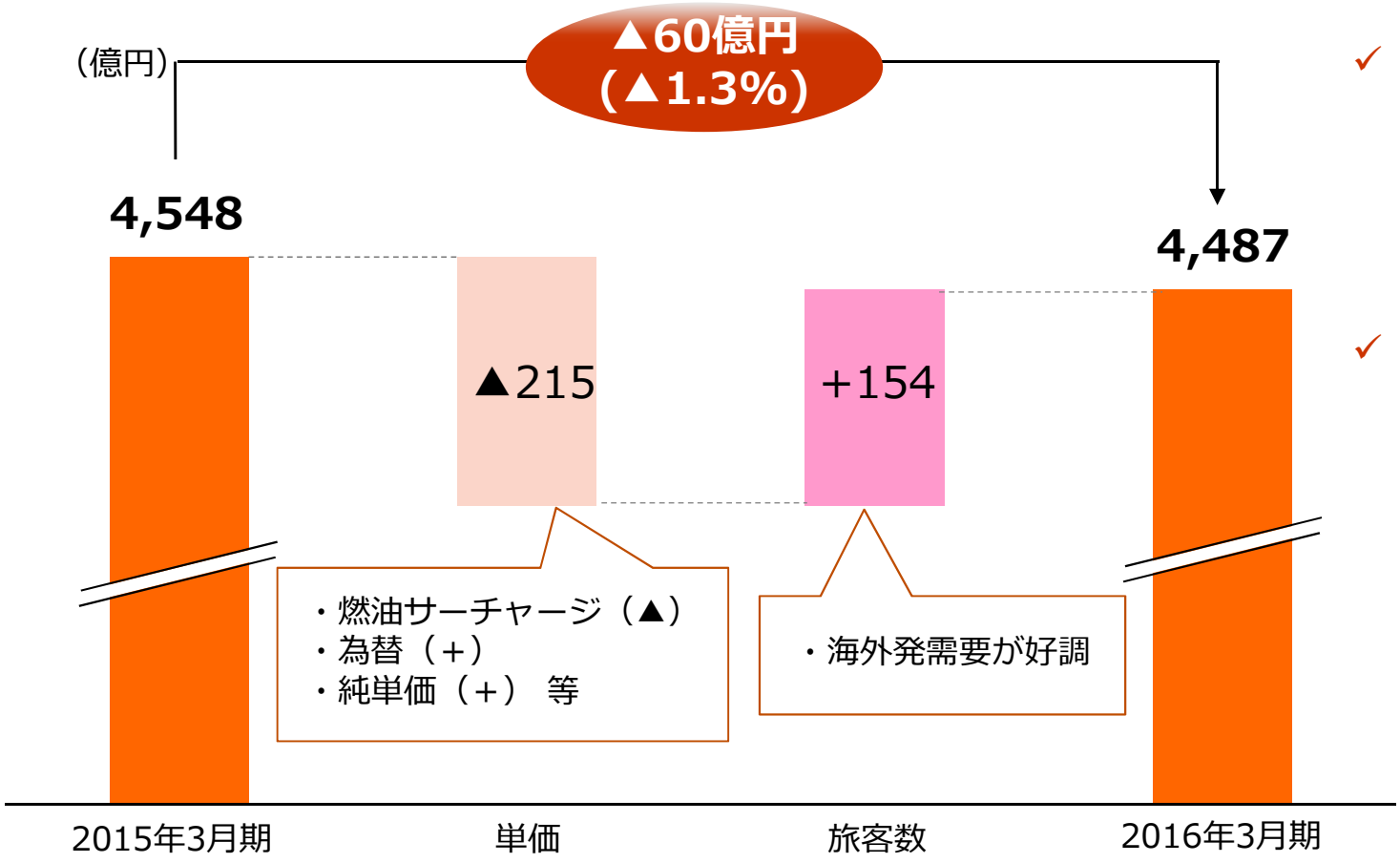
単価変動要因（概算）



1. 第4四半期(1-3月)の実績は2016年3月期実績(4-3月)から第3四半期累計実績(4-12月)を差し引いて算出
2. イールド=旅客収入/RPK
3. ユニットレベニュー=旅客収入/ASK
4. 単価=旅客収入/有償旅客数

国際旅客事業（旅客収入の推移）

2016年3月期



- ✓ 燃油サーチャージ減により単価が下落したものの、レベニューマネジメントやJAL SKY SUITE導入拡大により、座席利用率・純単価が向上
- ✓ 北米、東南アジア、中国線を中心に、海外発需要が大きく伸張

国内旅客事業（輸送実績）

国内旅客事業の状況

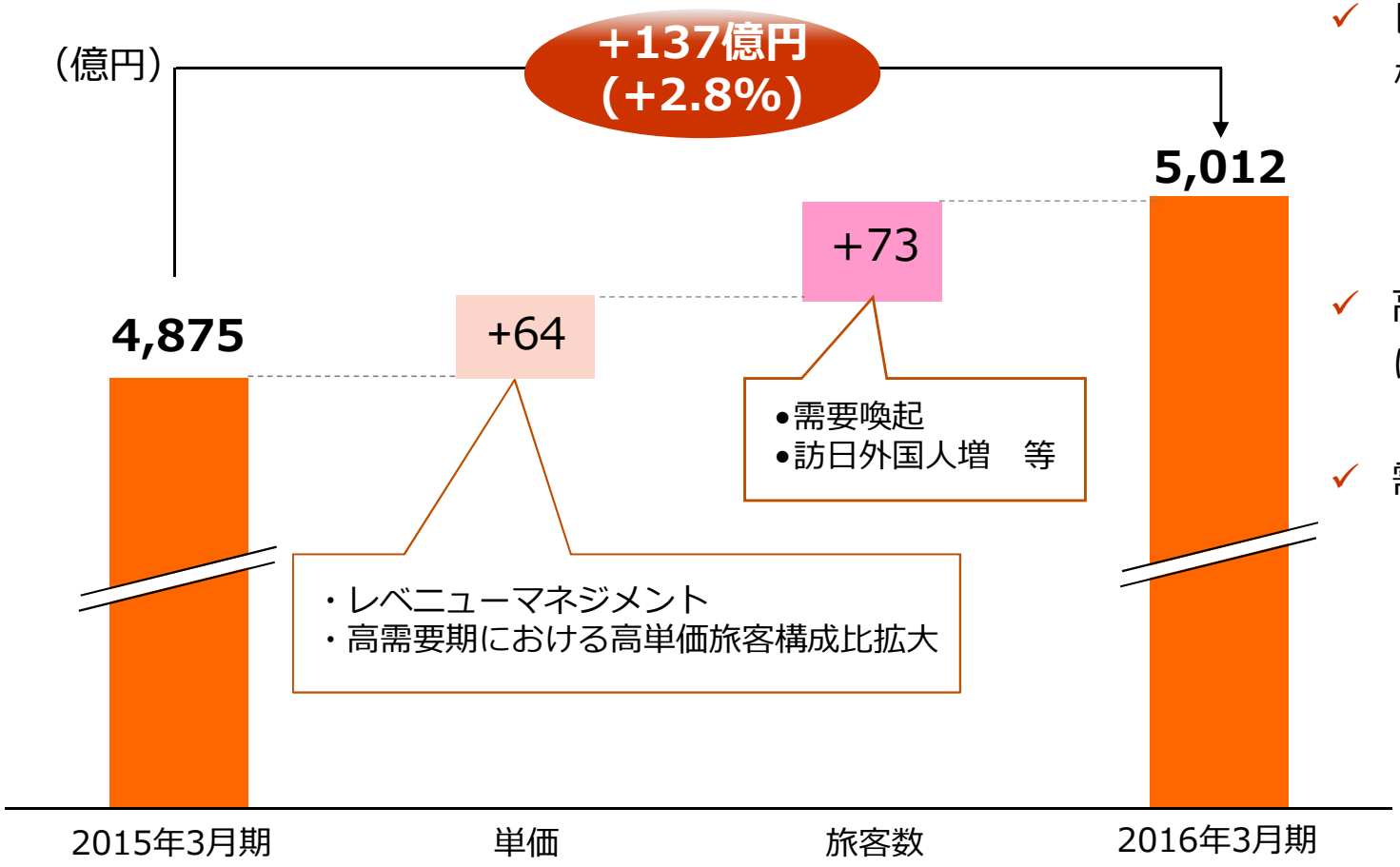
	前年同期	2016年3月期	前年同期比	第4四半期(1)	前年同期比
旅客収入（億円）	4,875	**5,012**	+2.8%	1,171	+2.3%
ASK（百万席キロ）	36,306	**35,869**	▲1.2%	8,702	▲1.6%
RPK（百万人キロ）	23,993	**24,341**	+1.5%	5,872	+2.1%
有償旅客数（千人）	31,644	**32,114**	+1.5%	7,736	+2.0%
座席利用率（%）	66.1%	**67.9%**	+1.8pt	67.5%	+2.5pt
イールド(2)（円）	20.3	**20.6**	+1.3%	19.9	+0.1%
ユニットレベニュー(3)（円）	13.4	**14.0**	+4.1%	13.5	+4.0%
単価(4)（円）	15,407	**15,609**	+1.3%	15,135	+0.3%

- ✓ 旅客収入は前年比+2.8%の5,012億円
- ✓ ASKが前年比▲1.2%に対し、RPKは+1.5%。座席利用率は1.8pt上昇し67.9%
- ✓ イールド・単価共に前年比+1.3%

1. 第4四半期(1-3月)の実績は2016年3月期実績(4-3月)から第3四半期累計実績(4-12月)を差し引いて算出
2. イールド=旅客収入/RPK
3. ユニットレベニュー=旅客収入/ASK
4. 単価=旅客収入/有償旅客数

国内旅客事業（旅客収入の推移）

2016年3月期



- ✓ レベニューマネジメントによる需要構成変化
  - ・JAL SKY NEXTが好評
  - ・個人旅客の増加
- ✓ 高需要期（シルバーウィーク・年末等）における高単価旅客構成比の拡大
- ✓ 需要喚起策の実施による旅客増
  - ・「ウルトラ先得」の新設
    (2015年4月14日～)
  - ・訪日外国人旅行者の増加　等

主要営業費用項目

営業費用内訳

（単位：億円）	前年同期	2016年3月期	前年差	前年同期比	第4四半期(1)	前年差	前年同期比
燃油費	2,825	**2,281**	▲543	▲19.3%	474	▲120	▲20.2%
運航施設利用費	816	**822**	+6	+0.7%	200	▲2	▲1.4%
整備費	406	**479**	+73	+18.0%	103	+5	+5.5%
航空販売手数料	243	**244**	+1	+0.7%	59	▲2	▲4.8%
航空機材償却費	674	**722**	+47	+7.1%	184	+13	+7.7%
航空機材賃借料	272	**234**	▲37	▲13.7%	55	▲20	▲27.3%
人件費	2,402	**2,499**	+97	+4.1%	629	+16	+2.7%
旅行原価・商事流通等(2)	1,066	**831**	▲235	▲22.1%	190	▲54	▲22.2%
その他	2,943	**3,158**	+214	+7.3%	843	+97	+13.1%
営業費用計	11,650	**11,274**	▲375	▲3.2%	2,740	▲68	▲2.4%

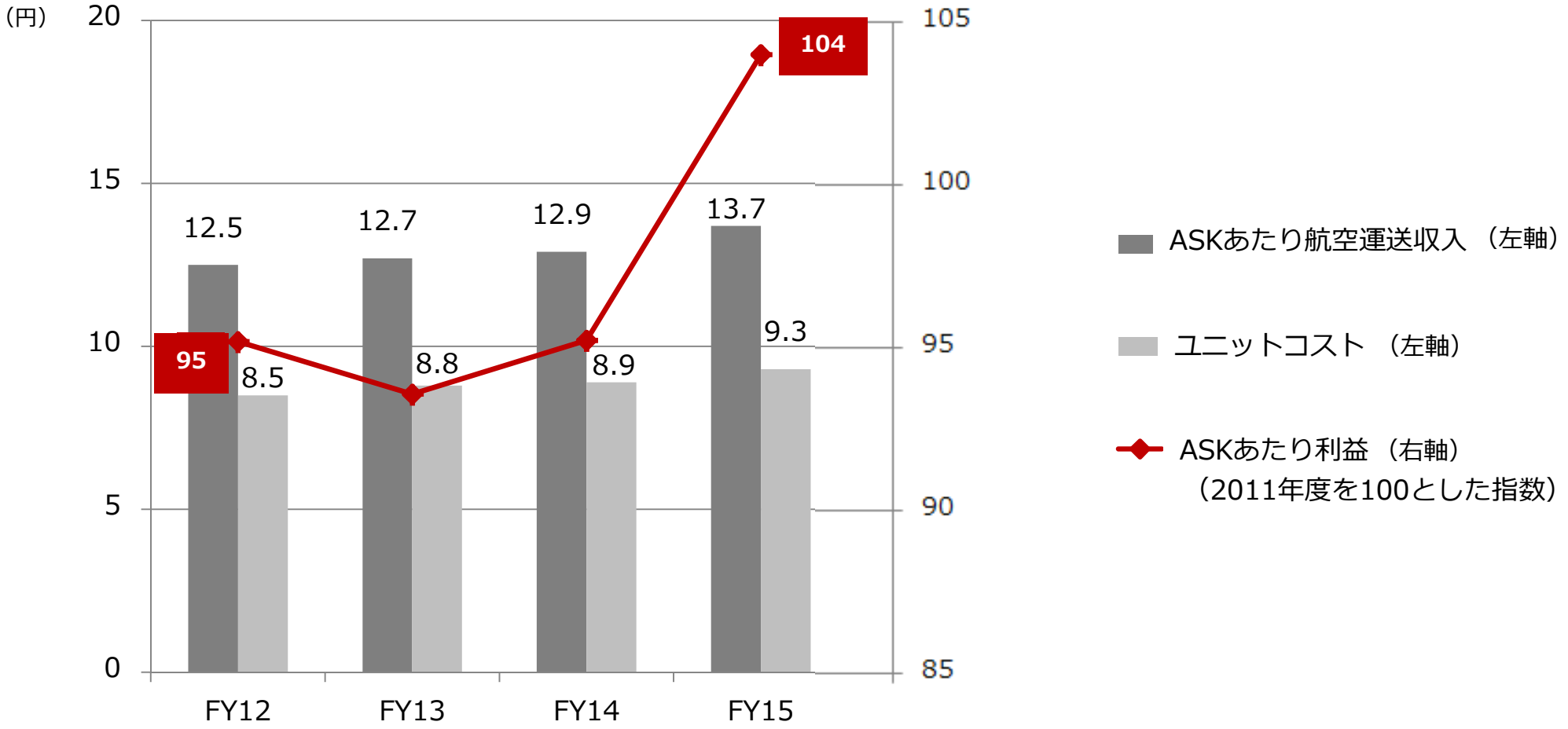
ASK前年比：+0.2%

- ✓ 円安およびサービス強化のための一部コスト増はあるものの、経費削減努力を継続中
- ✓ 燃油費は市況下落等により543億円減少（うち、円安影響で202億円増加）
- ✓ 整備費は主に円安影響で増加
- ✓ 人件費はベースアップ、賞与増および為替影響等により97億円増加

1. 第4四半期(1-3月)の実績は2016年3月期実績(4-3月)から第3四半期累計実績(4-12月)を差し引いて算出
2. 関連会社に対する燃油転売を含む

ASKあたり利益の極大化

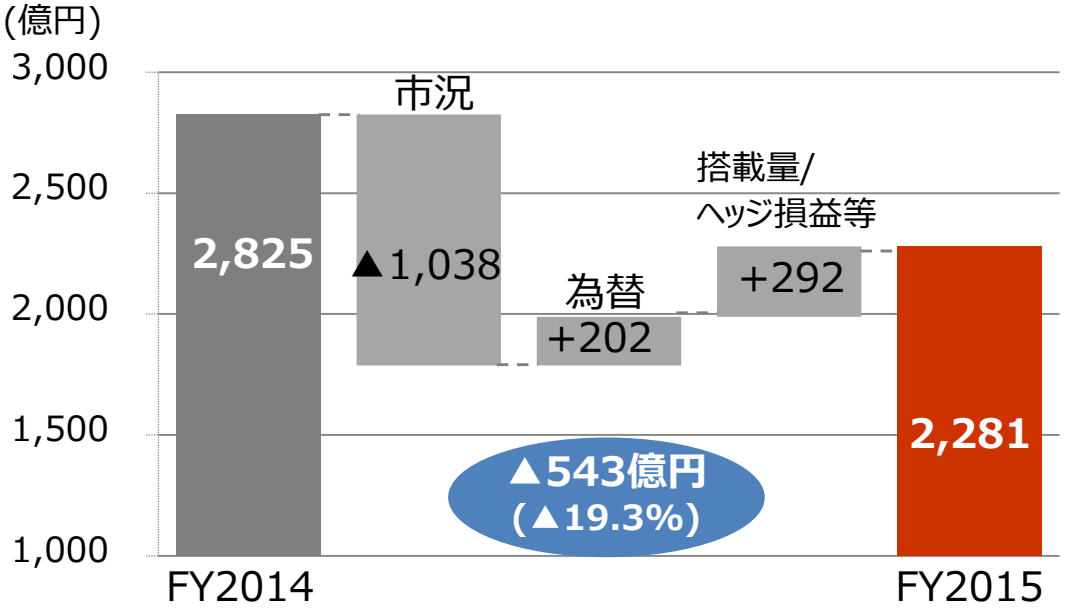
中長期的に安定的な事業運営を行うための基盤整備、サービス・商品力の強化を目指し、人財・商品サービスへ積極的に経営資源の配分を行い、ASKあたり利益の極大化を目指す



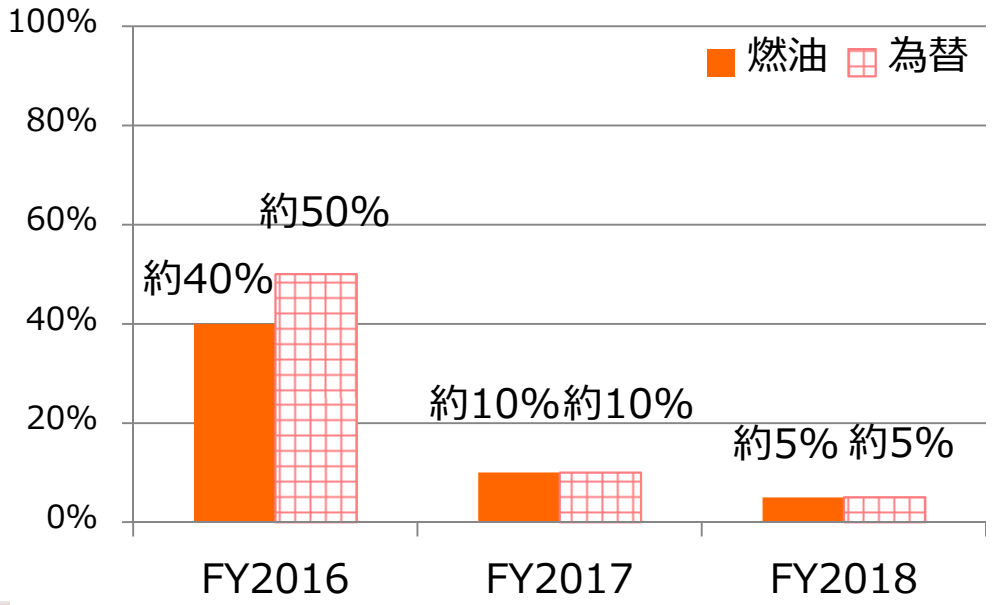
ASKあたり航空運送収入 ＝（航空運送収入 ー 燃油サーチャージ ー 関連会社燃油転売収入）/ASK
ユニットコスト ＝（航空運送費用 ー 燃油費 ー 関連会社への転売燃油費）/ASK
ASKあたり利益 ＝ (ASKあたり航空運送収入) ー (ユニットコスト)

燃油費

燃油費増減の推移



燃油費に対する年度別ヘッジ概況 (2016年3月末時点)



燃油・為替市況実績

	2015年3月期	2016年3月期	前年比	2017年3月期(予想)
シンガポールケロシン (USD/bbl)	103.5	60.0	▲42.0%	50.0
ドバイ原油 (USD/bbl)	87.6	47.2	▲46.1%	36.0
為替 (円/USD)	108.4	120.5	+11.2%	123.0

燃油費への感応度(ヘッジなし)

燃油費への影響(2017年3月期)	
原油 (1USD/bblの変動)	約27億円
為替 (1円/USDの変動)	約10億円

財務状況

2016年3月期末　連結財務状況

（単位：億円）	前年度末 2015/3/31	当期末 2016/3/31	前年度末差
総資産	14,733	**15,789**	+1,055
現金及び預金	3,649	**4,203**	+553
有利子負債残高 (1)	1,005	**926**	▲79
オフバランス 未経過リース料	1,250	**969**	▲281
自己資本	7,764	**8,430**	+666
自己資本比率 (%)	52.7%	**53.4%**	+0.7pt
D/Eレシオ（倍） (2)	0.1x	**0.1x**	▲0.0x
ROE（%） (3)	20.3%	**21.5%**	+1.2pt
ROA（%） (4)	12.8%	**13.7%**	+0.9pt

- ✓ 有利子負債残高は返済等により79億円減少し926億円
- ✓ 自己資本比率は53.4%

1. 割賦未払金を含む
2. D/Eレシオ＝（オンバランス有利子負債）/（自己資本）
3. ROE=（親会社株主に帰属する当期純利益）/（期首・期末自己資本平均）
4. ROA＝（営業利益）/ (期首・期末総資産平均)

キャッシュフローの状況（実績）

（単位：億円）	前年同期	2016年3月期	前年同期差
税金等調整前当期純利益	1,699	**2,073**	+374
減価償却費	858	**885**	+26
その他	53	**164**	+111
営業キャッシュフロー合計	2,611	**3,123**	+512
設備投資額 (1)	▲1,986	**▲2,106**	▲120
その他	▲6	**34**	+40
投資キャッシュフロー合計 (2)	▲1,992	**▲2,072**	▲79
フリーキャッシュフロー (3)	618	**1,051**	+432
有利子負債返済 (4)	▲511	**▲333**	+177
配当金・その他	▲162	**▲162**	▲0
財務キャッシュフロー	▲673	**▲496**	+176
キャッシュフロー合計 (5)	▲54	**555**	+609
EBITDA	2,655	**2,977**	+321
EBITDAR	2,927	**3,211**	+284

1. 固定資産の取得による支出
2. 定期預金の入出金を除く
3. 営業キャッシュフロー+投資キャッシュフロー
4. 長期借入金の返済+リース債務の返済
5. 営業キャッシュフロー+投資キャッシュフロー+財務キャッシュフロー

INTENTIONALLY LEFT BLANK

2017年3月期業績予想（連結業績）

JAPAN AIRLINES

収支計画

（単位：億円）	2015年度 実績	2016年度 予想	前年差	前年比 %
営業収益	13,366	**13,430**	+63	+0.5%
国際旅客収入	4,487	**4,500**	+12	+0.3%
国内旅客収入	5,012	**5,030**	+17	+0.3%
貨物郵便収入	915	**850**	▲65(3)	▲7.2%
その他収入	2,950	**3,050**	+99	+3.4%
営業費用	11,274	**11,420**	+145	+1.3%
燃油費	2,281	**2,020**	▲261	▲11.5%
燃油費以外	8,993	**9,400**	+406	+4.5%
営業利益	2,091	**2,010**	▲81	▲3.9%
営業利益率	15.7%	**15.0%**	▲0.7pt	-
経常利益	2,092	**1,930**	▲162	▲7.8%
当期純利益 (1)	1,744	**1,920**	+175(4)	+10.0%
ユニットコスト(円) (2)	9.3	**9.8**	+0.5	-

運航諸元・市況前提

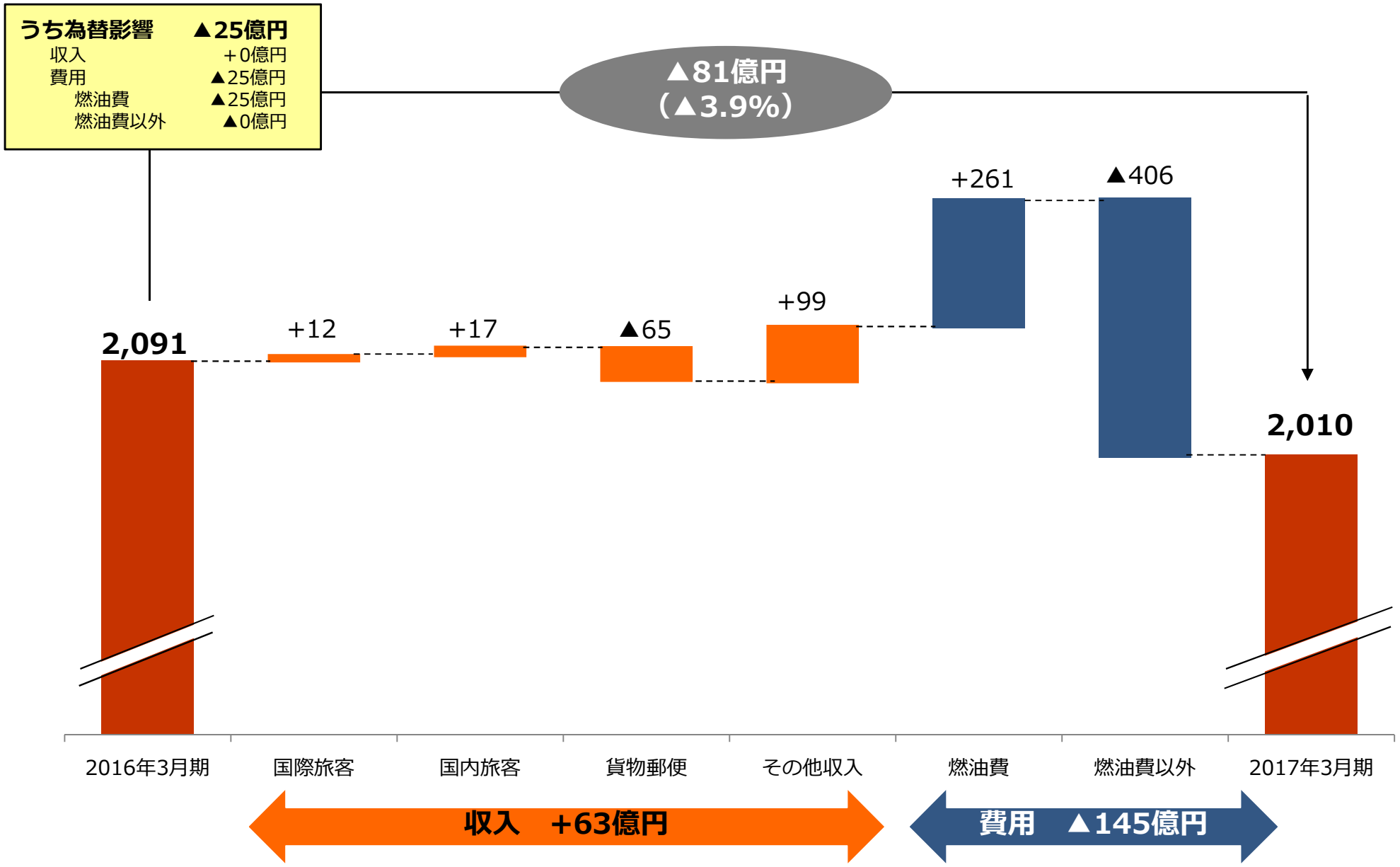
	2015年度 実績	2016年度 予想
ASK* 国際線	+1.3%	▲0.6%
国内線	▲1.2%	▲0.0%
合計	+0.2%	▲0.3%
RPK* 国際線	+5.4%	+1.2%
国内線	+1.5%	▲0.6%
合計	+3.8%	+0.5%

*前年比

	2015年度 実績	2016年度 予想
シンガポールケロシン（USD/bbl）	60.0	50.0
ドバイ原油（USD/bbl）	47.2	36.0
為替（円/USD）	120.5	123.0

1. 親会社株主に帰属する当期純利益
2. ユニットコスト=航空運送連結費用(燃油費、収入費用両建ての関連会社向け取引を除く) /ASK
3. 国際貨物販売手数料を収入とネットすることによる80億円の減収要因を含む
4. 税効果会計の新指針適用に伴い2016年度末に法人税等調整額を約300億円計上する見込み。但し、配当金計算上は当該法人税等調整額の影響は控除予定。

2017年3月期　営業利益予想の増減推移



2017年3月期予想（連結貸借対照表）

JAPAN AIRLINES

信用格付の向上を目指し、自己資本比率50%以上を維持し、財務安定性の向上を目指す

貸借対照表

（億円）	2016年3月期 実績	2017年3月期 予想	増減
総資産	15,789	**17,610**	+1,820
有利子負債残高	926	**880**	▲46
自己資本	8,430	**10,350**	+1,919
自己資本比率 (%)	53.4%	**58.8%**(3)	+5.4pt
ROE (1)	21.5%	**20.4%**	▲1.1pt
ROA (2)	13.7%	**12.0%**	▲1.7pt

資本政策に関する基本方針

安全性	リスクに備え、内部留保を蓄積 自己資本比率を 安全な水準に保持
資金調達 能力の強化	信用格付の向上 「Aフラット」(4)を目指す
資本効率	株主資本コストを上回る 資本効率の達成 ROE 10%以上の維持
株主還元	強固な財務体質構築を踏まえ 株主還元の拡充を検討

1. ROE＝(親会社株主に帰属する当期純利益) / (期首・期末自己資本平均)
2. ROA＝(営業利益) / (期首・期末総資産平均)
3. 税効果会計の新指針適用に伴い2016年度末に法人税等調整額を約300億円計上見込のため自己資本比率は上昇する予想。
4. ㈱格付投資情報センター・㈱日本格付研究所が付与する発行体格付

2017年3月期業績予想（キャッシュフロー）

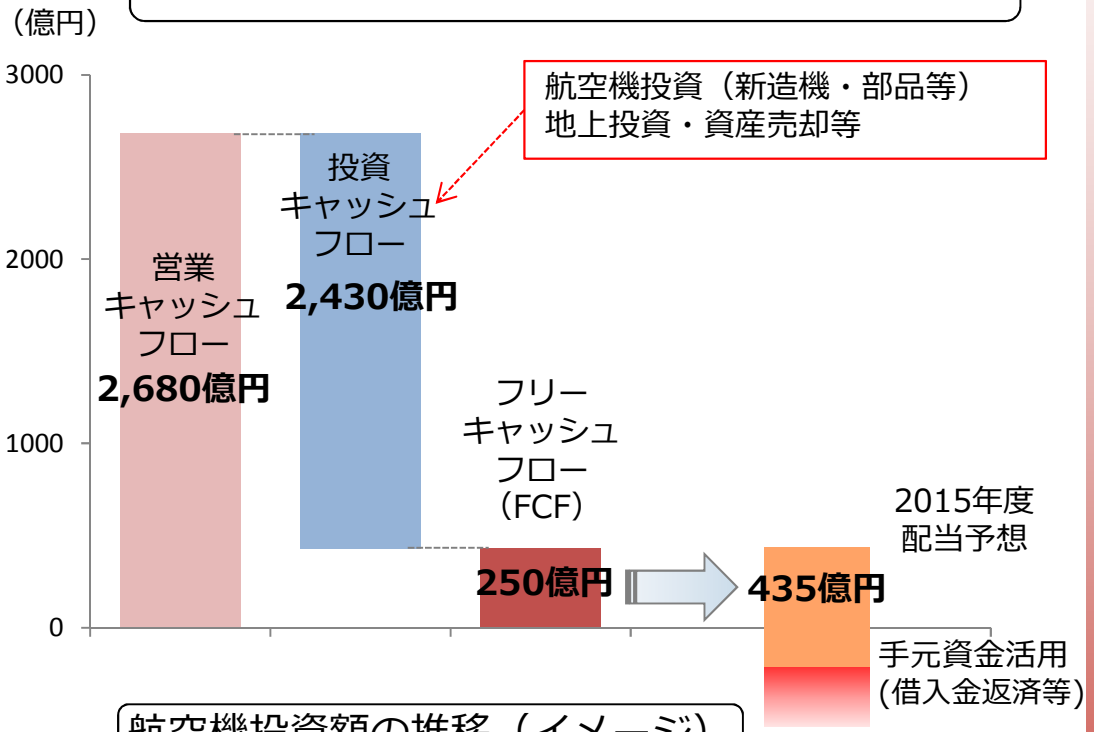
厳格な投資規律に基づき、適切な設備投資を実施
投資リターンを確保し、フリーキャッシュフローの極大化を目指す

キャッシュフロー

（億円）	2016年3月期 実績	2017年3月期 予想	増減
営業キャッシュフロー	3,123	**2,680**	▲443
投資キャッシュフロー(1)	▲2,072	**▲2,430**	▲357
フリーキャッシュフロー(1)	1,051	**250**	▲801
財務キャッシュフロー	▲496	**▲500**	▲3
EBITDA	2,977	**2,980**	+2
EBITDAR	3,211	**3,180**	▲31

1. 定期預金の入出金を除く

キャッシュフローの使途（2016年度）



航空機投資額の推移（イメージ）

※為替前提（123円）一定の場合

明日の空へ、日本の翼

JAPAN AIRLINES

当資料に関するお問い合わせ先

日本航空株式会社

財務・経理本部　財務部

《参考》国際線収入大路別実績

旅客収入

(単位:%)	収入前年伸び率		収入構成比		
	当期	第4四半期	前年同期	当期	第4四半期
太平洋線	+3.7%	+4.8%	35.5%	38.0%	37.0%
欧州線	▲11.4%	▲17.4%	16.5%	15.0%	12.0%
アジア・オセアニア線	▲1.1%	▲8.2%	36.5%	36.0%	39.0%
中国線	▲3.5%	▲12.1%	11.5%	11.0%	12.0%

有償旅客数

(単位:千人)	前年同期	当期	前年同期比	第4四半期	前年同期比
太平洋線	1,868	2,015	+7.9%	495	+8.7%
欧州線	635	612	▲3.7%	129	▲7.7%
アジア・オセアニア線	4,033	4,160	+3.1%	1,058	▲0.6%
中国線	1,256	1,292	+2.9%	330	+1.8%

ASK

(単位:百万席キロ)	前年同期	当期	前年同期比	第4四半期	前年同期比
太平洋線	18,219	19,615	+7.7%	4,941	+9.0%
欧州線	7,730	7,405	▲4.2%	1,615	▲9.0%
アジア・オセアニア線	18,219	17,884	▲1.8%	4,533	▲1.6%
中国線	3,527	3,421	▲3.0%	889	+6.9%

Load Factor

(単位:%)	前年同期	当期	前年同期差	第4四半期	前年同期差
太平洋線	80.0%	80.3%	+0.3pt	78.3%	+0.2pt
欧州線	75.3%	74.9%	▲0.4pt	72.4%	+0.2pt
アジア・オセアニア線	73.4%	80.3%	+6.9pt	80.8%	+3.2pt
中国線	66.5%	70.8%	+4.3pt	69.3%	▲3.5pt

RPK

(単位:百万人キロ)	前年同期	当期	前年同期比	第4四半期	前年同期比
太平洋線	14,574	15,742	+8.0%	3,868	+9.2%
欧州線	5,819	5,545	▲4.7%	1,170	▲8.8%
アジア・オセアニア線	13,371	14,359	+7.4%	3,662	+2.4%
中国線	2,344	2,421	+3.3%	616	+1.8%

《参考》航空機一覧

JAPAN AIRLINES

		前年度末 2015/3/31			当期末 2016/3/31			増減
		所有	リース	合計	所有	リース	合計	
大型機	Boeing 777-200	13	0	13	12	0	12	▲1
	Boeing 777-200ER	11	0	11	11	0	11	-
	Boeing 777-300	7	0	7	4	0	4	▲3
	Boeing 777-300ER	13	0	13	13	0	13	-
	大型機　小計	44	0	44	40	0	40	▲4
中型機	Boeing 787-8	20	0	20	23	0	23	+3
	Boeing 787-9	0	0	0	3	0	3	+3
	Boeing 767-300	13	0	13	9	0	9	▲4
	Boeing 767-300ER	24	8	32	28	4	32	-
	中型機　小計	57	8	65	63	4	67	+2
小型機	Boeing 737-400	12	0	12	12	0	12	-
	Boeing 737-800	21	29	50	22	29	51	+1
	小型機　小計	33	29	62	34	29	63	+1
リージョナル機	Embraer 170	15	0	15	17	0	17	+2
	Bombardier CRJ200	9	0	9	9	0	9	-
	Bombardier D8-400	9	2	11	8	2	10	▲1
	Bombardier D8-400CC	0	0	0	2	0	2	+2
	SAAB340B	13	0	13	13	0	13	-
	Bombardier D8-300	1	0	1	1	0	1	-
	Bombardier D8-100	4	0	4	4	0	4	-
	リージョナル機　小計	51	2	53	54	2	56	+3
	合計	**185**	**39**	**224**	**191**	**35**	**226**	**+2**

《参考》2017年3月期業績予想 (航空運送事業・国際旅客)

JAPAN AIRLINES

国際旅客事業

	2016年3月期実績	2017年3月期予想	前年同期比(%)（座席利用率のみ実数）		
			通期（予想）	上期（予想）	下期（予想）
旅客収入（億円）	4,487	**4,500**	+0.3%	▲3.3%	+4.4%
ASK（百万席キロ）	48,327	**48,045**	▲0.6%	▲0.1%	▲1.0%
RPK（百万人キロ）	38,069	**38,517**	+1.2%	▲0.0%	+2.4%
有償旅客数（千人）	8,080	**8,053**	▲0.3%	▲0.9%	+0.2%
座席利用率（%）	78.8%	**80.2%**	80.2%	79.8%	80.6%
イールド(1)（円）	11.8	**11.7**	▲0.8%	▲3.3%	+2.0%
ユニットレベニュー(2)（円）	9.3	**9.4**	+0.9%	▲3.2%	+5.5%
単価(3)（円）	55,537	**55,915**	+0.7%	▲2.5%	+4.2%

1. イールド=旅客収入/RPK
2. ユニットレベニュー=旅客収入/ASK
3. 単価=旅客収入/有償旅客数

《参考》2017年3月期業績予想 (航空運送事業・国内旅客)

JAPAN AIRLINES

国内旅客事業

	2016年3月期実績	2017年3月期予想	前年同期比(%)（座席利用率のみ実数）		
			通期（予想）	上期（予想）	下期（予想）
旅客収入（億円）	5,012	**5,030**	+0.3%	+0.8%	▲0.0%
ASK（百万席キロ）	35,869	**35,860**	▲0.0%	▲1.3%	+1.3%
RPK（百万人キロ）	24,341	**24,193**	▲0.6%	▲0.3%	▲0.9%
有償旅客数（千人）	32,114	**31,962**	▲0.5%	+0.2%	▲1.1%
座席利用率（%）	67.9%	**67.5%**	67.5%	67.5%	67.4%
イールド(1)（円）	20.6	**20.8**	+1.0%	+1.0%	+0.9%
ユニットレベニュー(2)（円）	14.0	**14.0**	+0.4%	+2.1%	▲1.3%
単価(3)（円）	15,609	**15,742**	+0.9%	+0.6%	+1.1%

1. イールド=旅客収入/RPK
2. ユニットレベニュー=旅客収入/ASK
3. 単価=旅客収入/有償旅客数

免責事項

本資料には、日本航空株式会社（以下「当社」といいます）及びそのグループ会社（以下当社と併せて「当社グループ」といいます）に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、当社が当該資料作成時点（又はそこに別途明記された時点）において入手した情報に基づく、当該時点における予測等を基礎として作成されています。これらの記述のためには、一定の前提・仮定を使用しています。これらの記述又は前提・仮定は当社経営陣の判断ないし主観的な予想を含むものであり、様々なリスク及び不確実性により、将来において不正確であることが判明し、あるいは将来において実現しないことがあります。したがって、当社グループの実際の業績、経営成績、財政状態等については、当社の予想と異なる結果となる可能性があります。かかるリスク及び不確実性には、日本その他の国・地域における経済社会状況、燃油費の高騰、日本円と米ドルその他外貨との為替レートの変動、テロ事件及び戦争、伝染病その他航空事業を取り巻く様々なリスクが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

本資料に掲載されている将来情報に関する記述は、上記のとおり当該資料の作成時点（又はそこに別途明記された時点）のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

本資料に掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、いかなる有価証券、金融商品又は取引についての募集、投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。

本資料への当社グループに関する情報の掲載に当たっては万全を期しておりますが、監査を経ていない財務情報も含まれており、その内容の正確性、完全性、公正性及び確実性を保証するものではありません。従いまして、本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではございません。

なお、本資料の著作権やその他本資料にかかる一切の権利は日本航空株式会社に属します。